

NPO 法人やどかりサポート鹿児島

本人が主人公になる当事者主体の居住支援

1. 基本情報

①自治体・団体名	特定非営利活動法人やどかりサポート鹿児島
②住所等	〒890-0056 鹿児島市下荒田4丁目30番5号プレジデント下荒田403号
③圏域の人口、高齢化率	人口：593,128人（令和2年10月現在） 高齢化率：約28.3%
④生活困窮者自立支援法に基づく事業の実施状況	実施していない
⑤主な事業・活動（④以外）	やどかりは居住支援法人であり、主に次の2つの事業を行っている。 (1)地域ふくし連帯保証：保証人がいないために住居の確保に困難を抱える方に対して保証とつながりを提供する事業 (2)やどかりライフ：地域ふくし連帯保証の利用者に対して、当事者どうしがつながりあり互いに支えあい助けあう「互助する暮らし方」を推奨することにより「当事者主体の居住支援」を展開する事業

2. 取り組みの経緯・背景

- 2007年に設立。
2017年に鹿児島県知事より居住支援法人の指定を受けた。
- 2007年から鹿児島県全域で「地域ふくし連帯保証」を展開。2023年3月時点で398名の利用者に対して保証を提供。「保証とつながりの提供」を理念としており保証とともに地域社会とのつながりを提供する。原則として、支援者を置き、利用者の日頃の生活を見守ったり困りごとがある際には相談支援を提供したりすることを前提として保証を提供している。
- しかし、中高年のホームレス生活者、DV被害者等、こうした支援者を置くことができない方も多い。そこで、2019年から、支援者がいなくても、当事者どうしがつながりあうことを前提に保証を提供する「やどかりライフ」を開始。「地域ふくし連帯保証」利用の際に、やどかりから「これからは同じような境遇の方々どうし、支えあい助けあう暮らしを始めませんか」と『互助する暮らし方』を提案する。2023年3月時点で107名の利用者が「やどかりライフ」に参加している。

3. 取り組み概要・実施体制

- 「やどかりライフ」においては、個別具体的な支えあい助けあいが行われている。
- 入居支援の段階においては
 - ・居住支援の対象者は経済的困窮から携帯電話を持たれない方も多く、そうした方への「伝言」
 - ・土地勘がない人のための「道案内」
 - ・市役所や銀行等の手続きの際の「同行」等、様々な支援を「やどかりライフ」参加者である当事者が行っている。このように入居支援の段階が

ら当事者がかかわることで、当事者どうしがつながりあい、スムーズに地域生活へ移行することができている。

■また、その後の地域生活においては

- ・病気の際の「買物支援」
- ・「入退院支援」

等が行われている。

さらに、なかまがお亡くなりになった際には「見送りあい・弔いあい」も行われている。

4. 成果や課題、今後の展開

■「やどかりライフ」の展開により、当事者同士のつながりや役割が生まれ、従来家族が担っていた役割を『身寄り』のない当事者どうしの支えあい助けあいにより補うことができている等、様々な効果が見られるとともに、今後のさらなる可能性を感じさせられている。

■いかにして互助をうみ、育てるのか？

やどかりにはこれまでの経験から、このようにしたらうまくいくのではないかとと思われるポイントが蓄積されつつある。例えば、「当事者の意思表示が重要」「すべての当事者に社会的に役に立つ力があるとの前提に立つこと（社会参加における能力存在推定）」「功利主義よりも「〇〇だから」といった関係を重視すること」等々。しかし、まだまだそのメソッドが確立されたとはいえず、これまでの経験や知見を踏まえつつ、様々な角度からの調査研究が必要であると考えている。

■また、当事者の互助を基盤としつつ、住居のみならず、入院入所時の身元保証の問題や死後事務の問題をも包含して解決する新たな仕組みづくりに挑戦している。

